

先輩たちの声 ～なぜ数学科を選んだのか～

高校のころは数物化生地が全部好きで、大学では何をやっていこうか決めかねていたのですが、「数学は、何になるにしても基礎となるだろう」と考えました。実際、卒業後は、学校教師や塾講師といった教育系から、確率モデルから世界の市場動向を予測（金融機関係）したり、ビックデータの統計分析から企業や行政の方向性を決定（シンクタンク系）したり、暗号や秘密計算でデジタル社会を支えたり（セキュリティ系）、就職先は幅広いです。

私は中国の浙江省の出身です。子供の頃から数多くの数学者たちの伝記を聞き、数学に興味を持ち始めました。その中でも特に、蘇 歩青先生の話が、印象に残り、数学者になるのを憧れています。中国では、小学校から数学コンペティションがあり、難問に挑みたい多く学生たちが参加していました。私も、小学校から高校までずっとコンペティションに参加し、数学能力を鍛え続けてきました。この過程の中で、私は数学問題の面白さを感じ、難問解決瞬間の達成感を楽しんでいました。こういう経験を経て、学部のとくに数学専攻を選択し、数学学生になりました。

大学に入る以前、それまで「数の並んだもの」と漠然と捉えていた数列を、「自然数を入力して実数が出力される関数」と厳密に定義できると初めて知った時は目から鱗が落ちたようでした。またその定義になじむに連れ、数列というものを身近に感じられるようになりました。それまで数学はあまり好きではなかったのですが、各々の概念に然るべき定義があり、その定義に慣れれば、その概念に実感を持てると気づき、数学が面白いと思うようになりました。そして、専門的に学びもっと面白さを見いだしたい、と思い数学科を志すようになりました。

私は、数学のすっきりとした理論体系に魅力を感じて数学専攻を選びました。高校生の時は、実は数学よりも化学の方が成績が良かったのですが、数学は（実際には厳密さに欠ける部分もありますが）高校生のレベルでも証明まで含めて理解できるものが多く、数学の学問としての面白さを感じていました。極限などの高校数学では曖昧になっていた部分を習得するとともに、その先にあるさらに美しい理論体系を学びたいと思ったのが決め手です。

僕は元々、数学が得意でも好きでもありませんでした。（正直に言うと嫌いでした。）あるとき、「サマーウォーズ」というアニメの映画を観ました。その映画の主人公が数学が得意な高校生で、非常にかっこよく見えました。この映画を観て、僕の数学に対するモチベーションがとても上がって、数学を頑張って勉強するようになりました。それで、頑張って勉強してるうちに、数学がとても楽しくなり、もっと勉強しようと思い、数学専攻を選びました！